

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

支えあう税金

香取市立小見川中学校三年

横山 咲太朗

近年、感染症や多くの自然災害によって、私たちの生活はおびやかされています。そして、そのような問題の対策や復興にかかる費用には私たち国民の税金が使われています。例えば、災害時に救助や捜索などを行う自衛隊の設備や病気・けがの治療にかかる費用の補助など様々なことに税金が使われています。最近では、感染拡大が起きている新型コロナウイルス感染症の被害を抑えるためのワクチン接種が無償で行っているのも税金があるからです。国民全員が安全に健康に暮らしていくために、税金は必要不可欠なものになっているのです。

そこで、もし税金が無かったらどうなるのかを考えてみました。まず、義務教育制度が無くなり、お金が無ければ教科書も買えず学校に通うこともできなくなります。さらに、道路を歩くのにお金が必要になったり、毎日を安全に過ごすことが出来なくなったりすると思います。私たちの当たり前の生活は税金によって支えられているのです。経済活動が停滞し、今まで税を納めて多

くの人の生活を支えていた人が、職を失い苦しい生活をしている今、その人たちを支えるのもまた税金です。社会全体が苦しい状況になり、当たり前の生活が失われかけている今だからこそ私は、税金がたくさんの人の努力や頑張りによって支えられていることを理解し、改めてそのありがたさについて考えることができました。だからこそ、税金はより良く使われてほしいと思いますし、納税者である国民がただ「義務」だから納めるのではなく納めた税金の使われ方にも関心を持ち、どう使っていくべきかを一人一人が考えることが必要だと思います。そして、国民みんなが税金の使われ方にも関心に向け、考える世の中になったら税金の使われ方に対しての不満は少なくなり、今以上にいろいろな人に平等で公平な社会になっていくと思います。

私はまだ中学生で、税金に支えてもらっている立場ですが、大人になって自分が社会を支えていく一人になった時は、今まで支えてもらった恩返しのようなつもりで納

税ができるように頑張っていきたいと思います。そして、三年後十八歳になり有権者となった時、私たちが生きていくこれからの世の中について真剣に向き合い、社会をより良くしていくにはどのように税金を使っているのが良いかを深く考え、責任を持って選挙に臨んでいきたいと思っています。

世界中が、不安を抱えている状況だからこそ、希望や勇気を、東京オリンピックは伝えました。前を向いて頑張っていこうという思いが伝わりました。コロナで日常が変わってしまい、今程、一人一人の意識が問われる時はありません。

全てに感謝して生きる。まわりの力があるから、前に進めます。税金は、今を、そして明るい未来のために支えてくれているのです。